

あいさつ

平田 直（防災科学技術研究所 首都圏レジリエンスプロジェクト総括）

首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト令和元年度報告会を始めるにあたり、主催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。

今年度は、2019年6月の山形県沖地震、9月の台風災害など、さまざまな自然災害が発生しました。これらを経験し、私たちは改めて首都圏のレジリエンス力、防災力を向上させることが重要であると考えようになりました。本プロジェクトは当初は地震災害について研究を行うということで始まりましたが、昨年の台風災害を見ると、広域災害に対する対応が重要であることが改めて分かりました。そして、地震災害だけではなく風水害など、さまざまな災害に対応できるような技術をつくり出すことが非常に重要であるという考えに至りました。

本プロジェクトは5カ年で進められており、間もなく3年目を終わろうとしています。私たちのレジリエンス力を向上させるための研究開発がますます進んでいくよう、今日の報告会を開催いたしました。

なお、2月24日に行われた政府の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の見解によると、この1~2週間が感染拡大を防ぐことができるかどうかの瀬戸際であると理解しています。そのため、本日は登壇者以外の参加者の来場をご遠慮いただき、無聴衆開催とさせていただきます。会場ではカメラを動かしており、皆さんには後ほどウェブページなどを通じてご覧になっていただけるよう準備しています。感染拡大のリスクを抑えつつ、首都圏のレジリエンス力向上を図るための議論ができるよう、われわれとして、できる範囲でさまざまな試みを行っています。

このような状況の中ではありますが、本日も議論を深めていきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。